

今期の中央労働講座はレクリエーションがないということで参加する前は「とてもしんどそう」という考え方が正直ありました。

鈴木龍一副執行委員長の「人材不足での離職対策におけるメンタルヘルス問題」の講義では罹患者本人のみならず周りの同僚、管理側、さらには企業にも大きな影響を及ぼすということがよくわかりました。やはり、組合員、労働者を病気にさせない予防策を徹底することが大事だと思いました。

鈴木誠一執行委員長の「全国港湾の成り立ち」の講義では全国港湾のこれまでの歴史はもちろん、日本の歴史、国民のたたかい革命などで民主化を勝ち取った欧米諸国と違い日本は薩長を中心に反幕府がクーデターの的に民主化を勝ち取ったということもあり日本人は元々主張することが苦手な国民性があるということがわかり勉強になりました。

畠山昌悦副執行委員長の「港湾運送事業法と港湾労働法の成り立ちとその背景」の講義では港湾労働の歴史、港湾貨物のコンテナ化などが詳しく説明され勉強になりました。港湾労働法に関しては全港湾を中心とした運動が行政を動かしたことにとても希望が持てました。先輩たちが築き上げた歴史を継承するためにも知っておくべき内容だと改めて感じました。

橋崎正伸副執行委員長の「詫間港運闘争から学んだ団結の必要性」の講義では詫間港運だけでなく日本中のあらゆる会社が組合員を減らす、あるいはつぶすという攻撃に出ることが多々あります。そのような会社の行為に惑わされない、負けない組合員の団結力が必要だと改めて感じました。労基法などの法律に関しては労基署に行けば教えてもらえますが組合員を増やすことや団結を高めることは誰も教えてくれません。だからこそ組合に結集し議論することや日頃からの声掛けが大事なんだと思いました。

各講義終了後のグループ討論も口下手ながら自分から発言し、座長の方も一生懸命くみ取ってくれて他のメンバーも話を聞いてもらえて嬉しかったです。

私にとって今回の中央労働講座は組合員としても一人の人間としてもとても勉強になりました。参加された皆さんありがとうございました。